

WESTUNION  
第334号  
2019年1月30日

# JR西労組 よなご

西日本旅客鉄道労働組合  
米子地方本部  
発行責任者 廣澤寿志  
編集責任者 上倉健司



▲ 新成人組合員との集合写真

## 《新成人》

(分会)	(氏名)
鳥取駅連区	宮廻 竜也
西鳥取車両	横山 拓磨
米子駅連区	濱 智也
米子保線区	加村 一樹
米子電気区	森本 裕太
後藤総合車両所	西村 勇大
後藤総合車両所	松原 亮介
後藤総合車両所	深田 亮平
松江駅連区	小林 純寛
松江駅連区	本勝 大奈
出雲電気	上田 純精
浜田駅連区	
浜田工務	

御成人おめでとうございます！

## 2019 旗開き「新春セミナー・新春の集い」



旗開き・新春セミナー  
JR西労組  
西日本旅客鉄道労働組合  
米子地方本部

閉会の挨拶では、福留副委員長が行い、この1年間選挙もあり中央本部大会も控えています。地方本部が先頭に立って取り組みを進めて行く、と力強く発言され閉会となりました。

集いの中座では、今年度に成人を迎える13名の組合員を対象に、「成人の祝い」を行いました。体調不良により3名出席できませんでした。一人ひとりに所属分会と今年の抱負を述べてもらい、「仕事も組合も一生懸命頑張ります！」と若さ溢れる頼もしい姿を見せてくれました。

1月19日(土)に米子ワシントンホテルにおいて2019旗開き「新春セミナー」を開催し、総勢94名が参加しました。セミナーの講師として組織内議員である福間県議より「政治に参加しよう」の題目で講演を行っていただきました。鳥取県内における選挙での投票率の低さに問題提起されるとともに、鳥取県議会では県内の大学生や高校生から県政について提言することが出来る学生議会を開き、学生が政治に参加できる機会を設定していること紹介されました。昔より鉄道と政治の繋がりは深いことから、西労組の組合員にも、あらゆる機会を通じて政治に参加してほしいと呼びかけられました。午後からは、新春の集いを開催し、両県連合やJR西日本連合、交運共済、中央本部、JR米子支社より来賓として参加いただきました。

# 政治に参加しよう



2019年「安全の集い」  
講演をされる山中工務部会長

実際の自分の想い等を熱弁していただきました。最後に、坂田副委員長が、お亡くなりになられた林氏の対応のため、病院に行った当時の事を涙ながらにお話しされ、後輩達には二度とこんな思いはして欲しくないと挨拶し、閉会した。

## 「安全の集い」「追悼献花式」を開催

2006年伯備線触車事故が発生してから13年が経過した。米子地方本部は安全の集い・追悼献花式を1月24日の命日に開催しました。午前中は、米子ワシントンホテルにおいて2019年「安全の集い」を開催し、米子地本の事故を経験していない組合員を中心に109名の組合員が参加した。松本執行委員の司会により、全員で黙とうを行った後、廣澤委員長の主催者代表あいさつ、来賓の福間県議・中田市議、中央本部の城副委員長・福本業務部長・山中工務部会長を紹介し、代表して福間県議より挨拶を受けた。伯備線触車事故当時のニュース映像を視聴した後、尾川業務部長から当時の状況や再発防止に向け取り組んできた内容と今後の課題について提起があった。その後、特別講義の講師として中央本部山中工務部会長より「線路内作業の安全確保のために」の題目で講演していただいた。山中部会長は、入社して最初に配属されたのが根雨保線管理室であり、お亡くなりになられた田子賢治氏から保線業務のノウハウについて学んだ当時の話や、事故発生時は米子支社の施設課に勤務しており、触車事故発生時の対応や、現在は、現場の室長として勤務され、部下を現場へ送り出す



安全を誓い、事故を風化させない  
根雨駅構内にある安全碑前で国鉄労働組合と合同追悼献花式を開催しました。献花式を始めるにあたり大川書記長より



事故を経験していない組合員が増える中、事故を発生させた当該地本として「事故を風化させてはならない」、また「安全にイデオロギーはない」との思いを持ち、労働組合の壁を越え、事故の発生時刻において合同による献花式を行い、改めて「命の尊さ」を心に刻み、悲惨な事故を二度と起こさない決意を安全碑の前で誓い合いたいと司会挨拶がありました。西労組を代表し中央本部の城副委員長より、事故の教訓を反省し安全最優先の取り組みを行っていくと挨拶をいただきました。廣澤委員長からは、「事故以降、二度と再びこのような辛い思いはしたくないという決意で、様々な再発防止策を創り上げ、愚直に守り続けてきた。お客様の安全と、現場で働く者の安全を創り上げることが鉄道に働く者の責務であることとをあらためて認識し、三名の尊い犠牲を無にすることなく、再発防止施策の検証を続け、安全最優先の職場を創り上げる」と安全碑に誓った。その後は、参加者全員による追悼献花を行い、安全を誓い、二度と悲惨な事故を起こさず、事故を風化させないことを参加者全員で確認しました。